

令和6年度 議会活性化計画書

(附 令和5年度 議会活性化計画 最終評価書)

「分かりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」を目指して



芽室町議会

目次【令和6年度議会活性化計画書】

1	議会活性化計画の策定	2
2	政策課題	2
(1)	政策課題とその概要	2
(2)	政策課題別実行計画	4
3	議会運営の活性化策	7
(1)	芽室町議会基本条例の前文	7
(2)	芽室町議会の運営の基本理念と基本方針	7
(3)	活性化実行計画	10

1 議会活性化計画の策定

芽室町議会は地域の活性化を促進するために次の目的で議会活性化計画を策定します。

(1) 住民参画の促進

議会活動を町民に対して説明し、積極的に情報を公開することで、町民が参画しやすい開かれた議会運営を行います。

(2) 政策決定と監視

議会は政策決定や町長の事務執行を監視・評価する役割を果たします。

(3) 独自の政策立案と提言

提出された議案の審議や審査だけでなく、議会は独自の政策立案や提言にも取り組みます。

2 政策課題

(1) 政策課題とその概要

ア 総務経済常任委員会

(ア) 芽室町まちなか再生ビジョン」のあり方について

町の顔である中心市街地は、空き家、空き店舗などが点在し、かつての「賑わい」を形成していた生活者や町民の往来はもとより、町外からの来町も少ない現状である。そのことからかつての「賑わい」を取り戻し、新しい「賑わい」を創出するべく、「芽室町まちなか再生ビジョン」は重要なものであると考える。町民の思いを反映した、町民のための「芽室町まちなか再生ビジョン」であるかを検証し、実現可能な施策を実施するため調査研究することを目的とする。

イ 厚生文教常任委員会

(ア) 小中一貫教育を含めた将来的な教育環境の整備

少子化が進む中、次世代を担う子どもたちを学校現場そして地域全体で、いかに育てていくかは喫緊の課題である。本町における教育を取り巻く諸課題についての実態把握をすすめ、小中一貫教育、令和8年度までを計画期間とする芽室町立小中学校配置計画など将来的な芽室の教育環境整備のため調査研究を進める。

(イ) 誰一人取り残さない防災体制の構築

災害時における、障害の特性に配慮した福祉避難所の充実等の要望を保護者団体から毎年受けている。障害者とその家族が、災害時に迷うことなく避難行動がとれる体制づくりは急務である。「誰一人取り残さない防災体制」の構築に向け、調査研究を進める。

(2) 政策課題別実行計画

政策課題名：施策（事業）名： 「芽室町まちなか再生ビジョン」の検証並びにあり方について

R6年度

計画・評価

所管委員会：総務経済常任委員会

作成年月日：令和 6年 4月 17日

【現状】

- 町の根幹、未来像を成す活性化計画にも関わらず、町民への周知、説明が不足し、町民の関心が薄い状況。
- 芽室に生まれ、育ち、また、芽室でなりわいを成す方、芽室を作ってきた高齢者など各世代の意見が反映されていない。
- 実現に向けた財政計画が明確でない。

【目指す姿】

- 生活者、消費者に必要とされる、まちなか再生。
- このまちに暮らす町民のため
- まちなかの「賑わい」、町内外者が集う場の創出

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

施策 1-2-1 地域内経済循環の推進と商工業の推進

【今年度の計画】

- ・かつての「賑わい」新しい「賑わい」が創出される、まちなか再生のあり方について調査研究を行う。
 - ①全ての世代、芽室町でなりわいを成す町民の思いが反映されたものか
 - ②中心市街地の活性化
 - ③実現可能であるか
 - ④財政計画

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・町の歴史、先人の思い、町民ニーズを踏まえた、実現可能な「芽室町まちなか再生ビジョン」の検証、改訂の検討
- ・実現可能な「賑わい」が創出されたまちなか再生計画のあり方
- ・限りのある財政支出、計画の明確化
- ・「芽室町まちなか再生ビジョン」の町民への周知、合意形成がされた上での実施計画

[全体行程]

項目		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全ての世代、芽室町でなりわいを成す町民の思いが反映されたものか運営手法	計画	→								
	実績									
中心市街地の活性化	計画	→	→							
	実績									
実現可能であるか	計画	→	→							
	実績									
財政計画	計画	→								
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 小中一貫教育を含めた将来的な教育環境の整備

R6年度

計画・評価

所管委員会：厚生文教常任委員会

作成年月日：令和 6年 6月 3日

【現状】

町内の年間出生数が減少している。

【目指す姿】

- ・子どもたちの多様な学びが保障される
- ・地域全体で子どもを育む体制の整備

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

施策 2-1-1 学校教育の充実

【今年度の計画】

- ① 現状の課題把握のための調査
- ② 意見聴取・交換の場を持つ（教育関係者等）
- ③ 先進事例等の調査研究
- ④ 学習環境の整備のための調査研究

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・年間出生数の減少により、中長期的な視点では校区なども課題となってくる。
- ・小中一貫教育の構築に向けて、全体ビジョンを定めていく必要がある。
- ・児童・生徒数減少などの物理的課題の解決のみ焦点を当てた改革や配置計画の見直しにならないよう議論を進める必要がある。

[全体行程]

項目		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実態把握・調査	計画	→								
	実績									
意見聴取・交換の場の設定	計画	→								
	実績									
先進事例等の調査研究	計画	→								
	実績									
学習環境整備の調査研究	計画	→								
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 誰一人取り残さない防災体制の構築

R6年度

計画・評価

所管委員会：厚生文教常任委員会

作成年月日：令和 6年 6月 3日

【現状】

- 町が定める「芽室町民避難行動原則」では、障害者も一般の指定避難所への避難が原則とされており保護者団体からは長年避難行動への合理的な配慮を求める声がある。
- 町は今年度から障害者に配慮した福祉避難所を指定したが、1事業者との協定に留まっており、当事者ニーズを満たすにはさらなる福祉避難所拡充策が必要である。
- 個別避難計画の策定が進んでいない。

【目指す姿】

- ①障害者とその家族が、災害時に迷うことなく避難行動をとることができるよう、福祉避難所の実を図る。
- ②災害時に支援が必要な住民ごとの個別避難計画の策定を推進する。
- ③①、②の実現により「誰一人取り残さない防災体制」を構築し、障害者とその家族がいつまでも安心して暮らせる芽室町を目指す

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

施策 3-3-3 障がい者の自立支援と社会参加の促進

【今年度の計画】

- ① 先進地事務調査
- ② 関係機関からの意見聴取
- ③ 委員討議・総括

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・障害者に配慮した福祉避難所の充実
- ・福祉避難所に指定される事業者への支援と連携
- ・避難行動要支援者ごとに作成する個別避難計画の策定が進んでいない

[全体行程]

項目		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実態把握・調査	計画	→	→							
	実績									
意見聴取・交換の場の設定	計画	→	→							
	実績									
先進事例等の調査研究	計画	→	→							
	実績									
	計画									
	実績									

3 議会運営の活性化策

(1) 芽室町議会基本条例の前文

地方議会は、二元代表制のもとで、行政機関の監視、調査、政策形成及び提案機能を十分発揮しながら、日本国憲法に定める地方自治の本旨の実現を目指しています。

芽室町議会（以下「議会」といいます。）は、町民によって選ばれた議員（以下「議員」といいます。）で構成し、本町の最高規範である芽室町自治基本条例（平成19年芽室町条例第3号）による議会の役割と責務に基づき、町長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会（以下「町長等」といいます。）と緊張関係を保持しながら、町の最高意思決定機関であることを認識し、町民全体の福祉向上と豊かなまちづくりの進展のために活動します。

また、議会は合議制の議事機関であり、町民への積極的な情報の公開、共有と説明責任の遂行により、町民の意思を的確に把握し、自由かつ達な討議を通じて、最も有益な結論に導いていく責務があります。

議員は、研鑽を積み、町民参加を基本としてまちづくりを推進する責務があります。

よって、議会の公正性・透明性を確保するとともに、「分かりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」を目指し、町民の信託に全力で応えていくことを決意し、この条例を制定します。

(2) 芽室町議会の運営の基本理念と基本方針

芽室町議会は、議会基本条例に沿って課題等を分析し、議員間討議を行い、次のとおり、基本理念及び基本方針を定め、議会改革と活性化を進めます。

ア 芽室町議会の運営の基本理念

「分かりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」の実現

イ 芽室町議会の6つの基本方針

芽室町議会は、基本理念を実現するため、次の6点を基本方針とします。

(ア) 開かれた議会

町民のまちづくりへの関心度を高めるとともに、町民への説明責任を果たすために、より一層の積極的な情報公開を行い、町民に分かりやすく、町民が参加しやすく、開かれた議会運営の実現を目指します。

(イ) 公平・公正、透明な議会運営

町民の信頼と期待に応えていくため、議会が町民の代表機関であることを常に自覚し、自由かつ達な議論を行い、公平・公正を基本とした民主的で透明性の高い議会運営を目指します。

(ウ) 適切な行政の監視と評価

適正な行政運営の確保のために、議決すべき事業の拡大を行うなど、行政への監視及び評価の機能の充実・強化を目指します。

(エ) 町民本位の政策立案と提言

提出された議案の審議または審査を行うほか、町民の視点から議員が十分な議論を行い、議会としての合意形成を図ることにより、積極的に議員及び委員会の提案による条例制定、政策提案及び政策提言等に取り組み、立法機能の充実・強化を目指します。

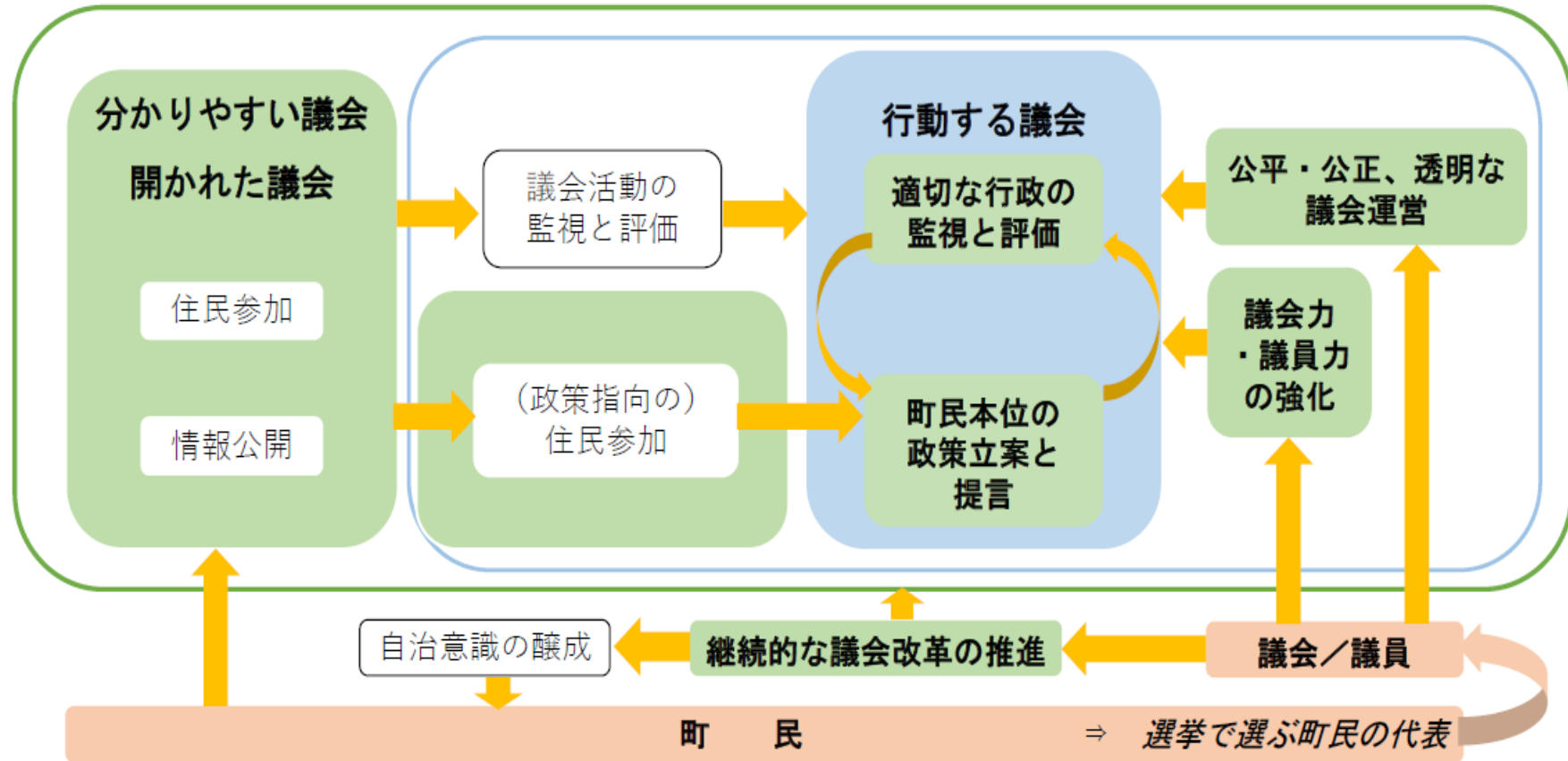
(オ) 議会力、議員力の強化

議事機関として広く町民の意思を把握し、町政に的確に反映させるとともに、議員個々の資質を高め、議会権能の強化と活性化に取り組み、議会力及び議員力の強化を目指します。

(カ) 継続的な議会改革の推進

町民に信頼されるために不断の努力と研鑽を行い、継続かつ持続的に議会改革に取り組みます。

芽室町議会における議会運営基本方針6項目（緑色の枠内の項目）の関連図



(3) 活性化実行計画

政策課題名：施策（事業）名： 1 外部評価による議会活動の精査と向上

R 6 年度

計画・評価

所管委員会：議会運営委員会

作成年月日：令和 6 年 5 月 7 日

【現状】

外部評価の前提となる個々の議会活動に係る議会の目標設定（PDMシート）について、共通認識が図られていない。

【目指す姿】

外部評価により議会として取り組むべき事業を精査し、また、手法を見直すなどし、事業の質の向上と目標達成を目指す。

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

【今年度の計画】

- ・議会モニターによる外部評価の実施

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・議会内で外部評価の共通認識を図るため、年度の早い時期に議員研修を開催する。
- ・外部評価の前提となる事業の目標設定は、議員間討議の手法を活用して導く。

[全体行程]

項 目		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		R 9 年度		備 考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
議会モニターによる外部評価の実施	計画	→								
	実績									
	計画									
	実績									
	計画									
	実績									
	計画									
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 2 自己評価制度の分析と改善

R 6 年度

計画・評価

所管委員会：議会運営委員会

作成年月日：令和 6 年 5 月 7 日

【現状】

これまでも見直しを行い実施しているが、目的・意義・手法等の課題について、その具体的な整理・解決に至っていない。

【目指す姿】

- ・意義及び評価結果の活用について、議員間での認識を共有
- ・条文の趣旨に沿う具体的な評価方法の整理

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

【今年度の計画】

- ・自己評価結果の検証
- ・評価手法の目的と成果の検証

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・現行制度の確認・分析と課題の抽出（HOPS 提言の活用）。
- ・課題解決に向けた改善策（方法）の協議・検討。
（目的・手法・意義・活用・効果等項目を設定し議員間討議により整理する）

[全体行程]

項 目		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		R 9 年度		備 考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自己評価結果の検証	計画	→								
	実績									
評価手法の検討と実行	計画	→								
	実績									
	計画									
	実績									
	計画									
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 3 情報公開の点検と見直し

R 6 年度

計画・評価

所管委員会：議会運営委員会

作成年月日：令和 6 年 5 月 7 日

【現状】

開かれた議会をスローガンに積極的な情報公開に努めているが、費用対効果や法令適合等の視点でチェックする必要がある。

【目指す姿】

年次計画により、適正な運用が図られるよう点検と見直しを図る。(①法令及び条例の理解・②HOPS 提言事項の検討・分析)

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

【今年度の計画】

- ・法令等基礎知識の研修の実施
- ・HOPS 提案事項（活性化計画書・議会白書）の確認・点検と改善事項の協議・検討の実施
- ・諮問会議答申事項の協議・検討の実施

【政策目標】

- ・現行制度の確認・分析と課題の抽出（HOPS 提言の活用）。
 - ・課題解決に向けた改善策（方法）の協議・検討。
- （目的・手法・意義・活用・効果等項目を設定し議員間討議により整理する）

【目標達成に向けての課題】

- ・個人情報保護・情報公開の法令・例規等基礎知識の研修
- ・HOPS 提言事項（活性化計画書・議会白書）の確認・点検と改善事項の協議・検討
- ・議会改革諮問会議答申及び住民からの指摘事項に対する方策の協議・検討

[全体行程]

項目		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		R 9 年度		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
法令等基礎知識の研修	計画	→	→							
	実績									
HOPS 提言事項の検討	計画	→	→							
	実績									
諮問会議答申事項の検討	計画	→	→							
	実績									
	計画									
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 4 広報広聴の機能拡充と手法の見直し

R6年度

計画・評価

所管委員会：議会運営委員会

作成年月日：令和 6年 5月 7日

【現状】

豊富な広報広聴の各種メニューについて、適宜見直しながら運用している（議会だより、モニター制度等）。

【目指す姿】

・議会モニターの活用強化
・住民ニーズを踏まえた「町民との意見交換会」への刷新

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

【今年度の計画】

- ・モニターからの意見聴取の工夫の検討
- ・町民との意見交換会の手法の見直しの実施
- ・HOPSからの提言事項（「議会のトリセツ」、「議員個人ページ作成」等）についての検討・実施

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・改正後のモニター設置規程に基づく、日常の議会、委員会活動における住民意見聴取と反映
- ・町民との意見交換会の手法の見直し（モニター会議での自由意見・議会改革諮問会議答申）
- ・「議会のトリセツ」「議員個人のページ作成」など、HOPSからの提言を形にする検討

[全体行程]

項目		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
モニターからの意見聴取の工夫	計画	→								
	実績									
意見交換会の手法見直し	計画	→								
	実績									
HOPS 庭園事項の検討	計画	→								
	実績									
	計画									
	実績									

政策課題名：施策（事業）名： 5 多様な議員のなり手実現に向けての検証

R 6 年度

計画・評価

所管委員会：議会運営委員会

作成年月日：令和 6 年 5 月 7 日

【現状】

2023 年の町議選は無投票だった。
多様な議員のなり手実現に向けた
環境創出の再考が必要。

【目指す姿】

- ・個別事業の目的と効果・成果を明確にする。
- 多様な町民が議員を志すことができる。

【芽室町総合計画との関係／関連するこれまでの議会の取組】

【今年度の計画】

- ・議員間討議の充実
- ・「(仮称) 議員のしくみ」等広報の検討
- ・政務活動費の導入検討
- ・議員定数と報酬の見直しの検討<議員間討議による具体事項検討（検討手法・改正内容・適用時期等）>
- ・「(仮称) 議会ハラスメント防止条例」制定に向けた調査・研究

【政策目標】

【目標達成に向けての課題】

- ・議会改革諮問会議の答申を尊重し、議員の「働き方改革」を念頭に置き、公務としての活動量は「報酬と定数の根拠」になることを意識して検討する。
- ・多様な議員のなり手を目指した「(仮称) 議員のしくみ」等専門技術を活用した広報の検討
- ・政務活動費の導入の検討、定数と報酬の見直しの検討（議員間討議による具体検討）
- ・「(仮称) 議会ハラスメント防止条例」制定に向けた調査・研究

[全体行程]

項 目		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		R 9 年度		備 考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
議員間討議の実施	計画	→	→							
	実績									
「(仮) 議員のしくみ」等広報の検討	計画	→	→							
	実績									
政務活動費の導入検討	計画	→	→							
	実績									
議員定数と報酬の見直し検討	計画	→	→							
	実績									

(仮称) 議会ハラスメント防止条例制定の検討	計画	→								
	実績									

附録目次【令和5年度議会活性化計画最終評価書】

1	政策課題別実行計画の達成状況評価	17
2	活性化実行計画の達成状況評価	25
3	芽室町議会基本条例に沿った活動評価（議員自己評価）	36

1 政策課題別実行計画の達成状況評価

(1) 総務経済常任委員会

ア めむろ新嵐山（株）の検証と新嵐山スカイパーク今後のあり方について

町の財政支援は令和4年度単年度で終わる状況にはなく、町の財政支援にも限界があることから、めむろ新嵐山(株)の経営能力及び持続可能な財政運営について検証する時期にきている。さらに「公の施設としての新嵐山スカイパーク」という原点に立ち返り、町民の財産、芽室町の中心的な観光・レジャー・教育の施設として、町民の利活用はもとより、点では無く面としての役割、芽室町全域に繋がる経済循環になっているかの確認も必要である。以上のことから、町民のために必要な施設、そのあり方について調査研究することを目的とする。

イ 持続可能な自治体 DX の推進について

人口減少、少子高齢化、担い手不足などが進む中、地域が抱える課題を解決する手段として自治体 DX 活用が本格化している。今年度は「芽室町 DX 推進ビジョン」策定が計画されているが、DX 推進の目的と町の将来像、町民の暮らしや行政サービスの向上、デジタルデバイドへの対応、セキュリティ対策についての確認が必要である。以上のことから、自治体 DX の推進について調査研究することを目的とする。

(2) 厚生文教常任委員会

ア 小中一貫教育を含めた将来的な教育環境の整備

少子化が進む中、次世代を担う子どもたちを学校現場そして地域全体で、いかに育てていくかは喫緊の課題である。本町における教育を取り巻く諸課題についての実態把握をすすめ、小中一貫教育、令和8年度までを計画期間とする芽室町立小中学校配置計画など将来的な芽室の教育環境整備のため調査研究を進める。

進捗工程表

達成時期：R7年3月

所管委員会：総務経済常任委員会

施策（事業）名：めむろ新嵐山（株）の検証と新嵐山スカイパーク今後のあり方について

【現状】

- 新嵐山（株）は令和3年度から債務超過に陥っている。
- 町の財政支援がなければ経営が成り立たない状況である。

【目指す姿(目標)】

- めむろ新嵐山(株)の抜本的経営改善
- 町民ニーズを踏まえた活用計画改訂
- 新嵐山スカイパークによる経済循環の確立

【課題・政策】

- 出資者である町、委託者である町、受託者であるめむろ新嵐山(株)の役割と責任の明確化
- 次期指定管理者選定と新嵐山活用計画改訂の検討
- 町が出資する法人に関する直接的な議会権限の確認

[取組内容]

町民のための新嵐山スカイパークのあり方について

以下の3点について調査研究を行う

- ① 運営手法
- ② めむろ新嵐山(株)の財政状況及び経営能力
- ③ 第3セクターのリスク研究

[工程詳細]

項目	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
運営手法		→							
めむろ新嵐山(株)の財政状況及び経営能力	→		→						
第3セクターのリスク研究	→								

[R 5年度評価] ⇒ 新規

進捗状況	令和5年7月町からめむろ新嵐山（株）の経営状況が急激に悪化しているとの報告があり、特別委員会設置は適切な対応であった。									
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	めむろ新嵐山（株）は、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症等の影響を受け経営不振となり、令和5年10月に経営破綻し休業となった。今後の新嵐山スカイパークのあり方等は、新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会において調査を進めるため、抽出事業は終了とする。									

[R 6年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 7年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 8年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

進捗工程表

達成時期：R7年3月

所管委員会：総務経済常任委員会

施策（事業）名：持続可能な自治体 DX の推進

【現状】

- DX の意義、目的について共通認識を図る。
- 自治体 DX の位置付けと今後の方向性

【目指す姿(目標)】

- 町民の暮らしの利便性向上
- 行政運営の効率化
- 地域課題に対応したデジタル化の推進

【課題・政策】

- 自治体 DX 推進にかかる情報管理のあり方
- デジタルデバイドへの対応

[取組内容]

自治体 DX について2点について調査研究を行う。

- ① オンラインセミナー「自治体 DX ステップ 0 研修」の受講
- ② 「芽室町 DX 推進ビジョン（案）」の調査

[工程詳細]

項目	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自治体 DX に関する研修		→							
「芽室町 DX 推進ビジョン（案）」調査		→							

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[R 5年度評価] ⇒ 新規

進捗状況	自治体 DX の目的について共通認識を図り、DX の目的、今後の取り組み、推進体制について調査を行った。									
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	オンラインセミナーで自治体 DX の目的について共通認識を図り、「芽室町 DX 推進ビジョン (案)」の調査に臨んだ。調査では総合計画後期実施計画実現のための手段として3つのミッションを掲げ推進していくことが明確になった。DX 推進体制も構築され、住民の利便性向上、業務の効率化への道筋が確立されたことから抽出事業を完了とする。課題であるセキュリティ対策や人材育成、財政負担の軽減、共同化や広域化などの対応については適切な時期に委員会調査を実施していくものとする。									

[R 6年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 7年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 8年度評価]

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他

備考	
----	--

進捗工程表

達成時期：R 7 年 3 月

所管委員会：厚生文教常任委員会

施策（事業）名：小中一貫教育を含めた将来的な教育環境の整備

【現状】

○町内の年間出生数が減少している

【目指す姿（目標）】

- 子どもたちの多様な学びが保障される
- 地域全体で子どもを育む体制の整備

【課題・政策】

- 年間出生数の減少により、中長期的な視点では校区なども課題となってくる
- 小中一貫教育の構築に向けて、全体ビジョンを定めていく必要がある
- 児童・生徒数減少などの物理的課題の解決のみ焦点を当てた改革や配置計画の見直しにならないよう議論を進める必要がある

〔取組内容〕

- ① 現状の課題把握のための調査
- ② 意見聴取・交換の場を持つ（教育関係者等）
- ③ 先進事例等の調査研究
- ④ 学習環境の整備のための調査研究

〔R5 の取り組み〕

・現状の教育課題について委員会調査を行い、共通認識を図った。

・教育委員との意見交換会を開催し、「小中一貫教育」について委員会共有を図った。(3.15)

・追分地区の小中一貫教育の経験から開校した「早来学園」を視察し、委員会共有を図った。(10.17)

〔工程詳細〕

項目	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
実態把握・調査	→								
意見聴取・交換の場の設定	→								
先進事例等の調査研究		→							
学習環境整備の調査研究	→								

[R 5年度評価] ⇒新規

進捗状況	先進地事務調査、委員会調査および教育委員との意見交換を開催し、小中一貫教育について共通認識を図った。									
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	平成 30 年から追分地区において「分離型」小中一貫教育が開始され、胆振東部地震による早来中学校の被災を契機に一体型義務教育学校「安平町立早来学園」が開校した。本町は、義務教育学校を視野としない取組ではあるが、追分地区における小中一貫教育導入の経過について多くのことを学ぶことができた。今後も「芽室町小中一貫教育基本方針」の具現化の取組に注視し、引き続き調査を進める。 「小中一貫教育」については、教育委員との意見交換会も開催でき、有意義であった。今後も、少子化の現状をしっかりと捉え、地域全体で子どもを育む学習環境整備の調査研究を行い、課題の整理に取り組む。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 7年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 8年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他

2 活性化実行計画の達成状況評価

進捗工程表

達成時期：R6年3月

所管委員会：議会運営委員会

施策（事業）名：1 外部評価による議会活動の精査と向上

【現 状】

- 外部評価の前提となる個々の議会活動に係る議会の目標設定（PDMシート）について、共通認識が図られていない。

【目指す姿（目標）】

- 外部評価により議会として取り組むべき事業を精査し、また、手法を見直すなどし、事業の質の向上と目標達成を目指す。

【課題・政策】

- 議会内で外部評価の共通認識を図るため、年度の早い時期に議員研修を開催する。
- 外部評価の前提となる事業の目標設定は、議員間討議の手法を活用して導く。

[取組内容]

- ・ PDMシートを用いた事業の成果分析
（対象事業の目的、目標の共通認識）
- ・ 議会モニターによる外部評価の実施

[工程詳細]

項 目	R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
外部評価対象事業の目的、目標の共通認識		→							
議会モニターによる外部評価の実施			→						

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[R 5年度評価] ⇒

進捗状況	研修や議員間討議を通じて外部評価についての共通認識は図れた。									
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	令和5年6月28日(水)に木全洋一郎氏(JICA 北海道・道東業務代表)を招いて研修会を開催し「議会活動における外部評価」について、全議員で学びを深めた。また、令和6年1月15日(月)には、全員協議会において「外部評価による議会活動の精査と向上について」と題し、グループワークを用いて議員間討議を実施した。議員間討議の結果、外部評価の評価者は、「議会モニター(経験者)及び議会改革諮問会議委員」が適当と結論付け、各事業においては、目的を明確に設定すること等について共通認識を図った。これらのことから、令和5年度当初に取組む予定の「外部評価の目的・目標の共通認識」は「概ね達成」と評価し、次年度へ継続して取組むこととする。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

進捗工程表

達成時期：R7年3月

所管委員会：議会運営委員会

施策（事業）名：2 自己評価制度の分析と改善

【現 状】

- これまでも見直しを行い実施しているが、目的・意義・手法等の課題について、その具体的な整理・解決に至っていない。

【目指す姿（目標）】

- 意義及び評価結果の活用について、議員間で認識を共有する。
- 条文の趣旨に沿う具体的な評価方法を整理する。

【課題・政策】

- 現行制度の確認・分析と課題の抽出（HOPS提言の活用）。
- 課題解決に向けた改善策（方法）の協議・検討。
（目的・手法・意義・活用・効果等項目を設定し議員間討議により整理する）

[取組内容]

- ・ 自己評価の目的、意義の共通認識を図る
- ・ 自己評価結果の検証
- ・ 評価手法の目的と成果の検証

[工程詳細]

項 目	R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自己評価の目的、意義の共通認識		→							
自己評価結果の検証			→						
評価手法の検討と実行			→						

[R 5年度評価] ⇒

進捗状況	令和5年度は改選期であり、1期生議員が現行の自己評価を実践後に見直すこととし、例年通りの実施とした。なお、次年度見直しに向けての議員アンケートを実施した。									
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	令和5年度は改選期であり、自己評価の目的、意義の共通認識を図ることを目的として、議員アンケートを実施した。令和6年度にはアンケート結果を基に検証を行う。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

進捗工程表

達成時期：R6年3月

所管委員会：議会運営委員会

施策（事業）名：3 情報公開の点検と見直し

【現 状】

- 開かれた議会をスローガンに積極的な情報公開に努めているが、費用対効果や法令適合等の視点でチェックする必要性がある

【目指す姿（目標）】

- 年次計画により、適正な運用が図られるよう点検と見直しを図る。(①法令及び条例の理解・②HOPS 提言事項の検討・分析)

【課題・政策】

- 個人情報保護・情報公開の法令・例規等基礎知識の研修
- HOPS 提言事項（活性化計画書・議会白書）の確認・点検と改善事項の協議・検討
- 議会改革諮問会議答申及び住民からの指摘事項に対する方策の協議・検討

[取組内容]

- ・法令等基礎知識の研修の実施
- ・HOPS 提案事項（活性化計画書・議会白書）の確認・点検と改善事項の協議・検討の実施
- ・諮問会議答申事項の協議・検討の実施

[工程詳細]

項 目	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
法令等基礎知識の研修	→								
HOPS 提言事項の検討	→								
諮問会議答申事項の検討	→								

[R 5年度評価] ⇒

進捗状況	「情報公開・個人情報保護」に係る基礎知識会得の研修を年度当初に計画したが、講師との日程調整が整わず未実施となった。令和6年度に引き続き取り組む事項とする。なお、「わかりやすい情報公開」として、「活性化計画書・白書」の見直しも未達となり、同じく令和6年度早々に取り組む事項とする。									
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	「情報公開の点検と見直し」については、議会内部の共通認識を図るために一定の時間を要することや、関係機関等（研修講師）との調整も必要なことから全般に取り組みが遅れている。3項目の優先度と実現性を精査し、令和6年度からの活動に精力的に取り組むこととする。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

進捗工程表

達成時期：R6年3月

所管委員会：議会運営委員会

施策（事業）名：4 広報広聴の機能拡充と手法の改善

【現 状】

- 豊富な広報広聴の各種メニューについて、適宜見直しながら運用している（議会だより、モニター制度等）。

【目指す姿（目標）】

- 議会モニターの活用強化
- 住民ニーズを踏まえた「町民との意見交換会」への刷新

【課題・政策】

- 改正後のモニター設置規程に基づく、日常の議会、委員会活動における住民意見聴取と反映
- 町民との意見交換会の手法の見直し（モニター会議での自由意見・議会改革諮問会議答申）
- 「議会のトリセツ」「議員個人のページ作成」など、HOPSからの提言を形にする検討

【取組内容】

- ・モニターからの意見聴取の工夫の検討
- ・町民との意見交換会の手法の見直しの実施
- ・HOPSからの提言事項（「議会のトリセツ」、「議員個人ページ作成」等）についての検討・実施

【工程詳細】

項 目	R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
モニターからの意見聴取の工夫		→							
意見交換会手法見直し		→							
HOPS 提言事項の検討		→							

[R 5年度評価] ⇒

進捗状況	「町民との意見交換会」の手法の見直し、「議員個人ページの充実」などに取組んだが達成したとは言えない。									
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	モニター会議は、それぞれテーマを設定して2回開催した（8月・11月）。「町民との意見交換会」については、開催手法の見直しに向けて取組んだが、実現には至らなかった（7～10月）。また、今年度は新嵐山スカイパークが休業となる事態となり、そこに至るまでの議会の取組み（特別委員会設置、補正予算否決等）について、議会報告会を開催した（10月）。「議会のトリセツ」については、未着手であり、「議員個人ページの充実」については、検討を重ねたが（10～12月）実現には至らず、令和6年度に向けて引き続き取組むこととする。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A目標達成	B概ね達成	C未達成	D未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

進捗工程表

達成時期：R7年3月

所管委員会：議会運営委員会

施策（事業）名：5 多様な議員のなり手実現に向けての検証

【現 状】

- 2023年の町議選は無投票だった。多様な議員のなり手実現に向けた環境創出の再考が必要。
- 高校生との連携事業等（白樺高校、芽室高校）について、目的の明確化、事業内容の協議・検討が必要。

【目指す姿（目標）】

- 個別事業の目的と効果・成果を明確にする。
- 多様な町民が議員を志すことができる

【課題・政策】

- 議会改革諮問会議の答申を尊重し、議員の「働き方改革」を念頭に置き、公務としての活動量は「報酬と定数の根拠」になることを意識して検討する。
- 多様な議員のなり手を目指した「(仮称)議員のしくみ」等専門技術を活用した広報の検討
- 政務活動費の導入の検討、定数と報酬のあり方の再考
- 高校生との連携事業等の目的と目標の明確化、事業内容の協議、検討

[取組内容]

- ・議員間討議の充実
- ・高校生との連携事業等についての目的の明確化と事業内容の協議、検討
- ・「(仮称)議員のしくみ」等広報の検討
- ・政務活動費の導入検討

[工程詳細]

項 目	R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
議員間討議の実施									
高校生との連携事業等についての目的の明確化と事業									

内容の協議、検討									
「(仮称) 議員のしくみ」等 広報の検討	→								
政務活動費の導入検討									

[R 5年度評価] ⇒

進捗状況	議員間討議を実施しながら課題解決に取り組んだ。政務活動費については先進地調査を実施（釧路町）。高校生との事業（白樺高校との包括連携協定事業・芽室高校との意見交換会）については、実施目的について一定整理して実施した。									
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考	各常任委員会及び全員協議会の場を活用して議員間討議を実施し、課題解決に向けた取組みを行った。引き続き議員間討議の精度を上げていく。政務活動費については釧路町の先進地事務調査を実施した。令和6年度検討を進める。高校生との事業については、①「地方自治の担い手意識の醸成」（政策反映を大前提とする）、②議会活動の認知度向上を図る。③生徒たちが自分の住むまちのことについて関心を持つこと。として整理して実施した。									

[R 6年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他
備考										

[R 年度評価] ⇒

進捗状況										
達成評価	A 目標達成	B 概ね達成	C 未達成	D 未着手	進行管理	完了	継続	見直し	取止め・廃止	その他

備考	
----	--

3 芽室町議会基本条例に沿った活動評価（議員自己評価）

評価基準：
A = おおむね達成した。向上心を持って取り組んだ。 B = 取り組んだが、不足している部分等が見受けられ、改善の余地がある。 C = 取り組もうとしたが、達成したとまでは言いがたい。 D = 全く取り組んでいない。取り組んだとはいえない。 E = その他（不明・回答不可など）→ Eの場合は、自由表記に必ず記載すること。 F = 事例・実績なし — =表記なし（H29まで）
自由表記：

前文

地方議会は、二代表制のもとで、行政機関の監視、調査、政策形成及び提案機能を十分発揮しながら、日本国憲法に定める地方自治の本旨の実現を目指しています。芽室町議会（以下「議会」といいます。）は、町民によって選ばれた議員（以下「議員」といいます。）で構成し、本町の最高規範である芽室町自治基本条例（平成19年芽室町条例第3号）による議会の役割と責務に基づき、町長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会（以下「町長等」といいます。）と緊張関係を保持しながら、町の最高意思決定機関であることを認識し、町民全体の福祉向上と豊かなまちづくりの進展のために活動します。また、議会は合議制の議事機関であり、町民への積極的な情報の公開、共有と説明責任の遂行により、町民の意思を的確に把握し、自由かつ達な討議を通じて、最も有益な結論に導いていく責務があります。議員は、研鑽を積み、町民参加を基本としてまちづくりを推進する責務があります。よって、議会の公正性・透明性を確保するとともに、「分かりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」を目指し、町民の信託に全力で応えていくことを決意し、この条例を制定します。

R4-R5	評価項目としない
	・議会は、前文のとおり活動したと考えるか。
R4-R5	評価項目としない
	・あなたは、前文のとおり活動したか。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、議会が果たすべき自主的かつ自律的な運営を実現するための基本的な事項を定め、議会の役割を明確にするとともに、町民全体の福祉向上と豊かなまちづくりの進展に寄与することを目的とします。

R4-R5	評価項目としない
	・議会は、条例の目的を果たしたか／・条例をもとに活動したかなど

（基本理念）

第2条 議会は、町民の代表としての負託と信頼に応え、大局的な視点から意思決定し、真の地方自治の実現に取り組みます。

<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、基本理念に則り活動したと考えるか。 	
R5	↑
A=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)	
R4	↓
A=13人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗) B=1人(正村)	
<ul style="list-style-type: none"> ・議員間討議、行政課題に対応した研修の実施 	

議員辞職により2名
欠員(総数14名)

2 議会は、町政運営に関する監視、調査、政策形成及び提言機能を併せ持つ機関としての責任を果たします。

R4	R5	条全体を一括で評価するため評価項目としない
<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、これらの機関としての責任を果たしたとか。 		

3 議会は、予算及び決算をはじめとする町政に係る様々な事項に対し、議事機関としての責任を果たします。

R4	R5	条全体を一括で評価するため評価項目としない
<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、議事機関としての責任を果たしたか。 		

4 議会は、広く町民の意思を把握し、町政に的確に反映させることを目的に、議員個々の資質を高め、議会機能の強化並びに活性化に取り組み、議会力及び議員力を強化します。

R4	R5	条全体を一括で評価するため評価項目としない
<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、これらのことを目的に議会力・議員力を強化したか。 		

第2章 議会及び議員の活動原則と政治倫理

(議会の活動原則)

第3条 議会は、全ての会議を原則公開するとともに、民主的かつ効率的な議会運営のもとに、次の活動を行います。

(1) 議事機関として、町政の重要事項について意思決定を行うこと。

<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、議事機関として町政の重要事項について意思決定したか。 	
R5	→
A=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)	
R4	→
A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)	

(2) 町民の意思が的確に反映され、公正で民主的に町政が運営されているかを監視し、けん制すること。

<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、これらをもとに監視し、けん制したか。 	
R5	↑

<p>A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤） B=1人（木村） ・成年、高齢者、生活者の意思が的確に反映されるようけん制すべきだった。</p>
<p>R4 ↓ A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗） B=1人（正村） ・具体的な行政課題をテーマに議員間討議を実施する</p>
<p>(3) 議員相互間の自由かつ達な討議を通して意見を集約し運営すること。 ・議会は、自由かつ達な討議により意見集約し運営したか。</p>
<p>R5 ↑ A=12人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、正村、西尾、鈴木、梶澤） B=4人（木村、早苗、中村、常通） ・自由にフランクな意見交換が必要。 ・論点を明確にした上で討議する。 ・議員間の討議により一定の方向性を見出すことは重要。今後も、自然な形での継続を望みたい。 ・一回で終わらせないで数回討論する。</p>
<p>R4 ↓ A=9人（中田、堀切、渡辺、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗） B=5人（橋本、梶澤、立川、中村、正村） ・自由討議は前進しているが、更なる活性が必要と感じる ・議員間討議を行うタイミングやその手法には改善点がある ・議員研修から間を置かず物価高騰の支援策について、議員間討議をおこなった。さらに継続したとりくみが必要 ・物価高騰対策WSは、ひとつの成果と捉えたい。今後はより具体的なテーマを議員間討議することで議会としての意思を明確にする</p>
<p>(4) 議決責任を深く認識するとともに、重要な事項についての議案等を議決したときは、町民に対して説明すること。 ・議会は、議決責任を深く認識し、重要な事項についての議案等を議決したときは、町民に対して説明したか。</p>
<p>R5 → A=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p>
<p>R4 → A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p>

(委員会及び委員長の活動原則)

第4条 芽室町議会委員会条例（昭和62年芽室町条例第2号）に規定する常任委員会、議会運営委員会及び特別委員会（以下「委員会」といいます。）は、次の活動を行います。

(1) 審査及び調査に当たっては、資料等を公開し、町民に分かりやすい議論を行うこと。

・委員会は、審査及び調査に当たり、資料等を公開し、町民に分かりやすい議論を行ったか。

委員会評価

所管

総務経済委

R5

A=7人（菊池、木村、橋本、渡辺、正村、常通、西尾）

F=1人（梶澤）

R4

A=6人（中田、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町）

F=1人（早苗）

厚生文教委

R5

A=8人（伊藤、小笠原、中田、堀切、立川、早苗、中村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4

A=7人（橋本、堀切、渡辺、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

議運委

R5

A=7人（木村、中田、渡辺、立川、中村、正村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4

A=10人（中田、橋本、渡辺、立川、中村、鈴木、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

予決特委

R5 

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 

A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）


(2) 町民に対し審査の経過及び所管する行政課題等に対処することを目的に、意見交換会等を開催すること。

・委員会は、審査及び調査に当たり、資料等を公開し、町民に分かりやすい議論を行ったか。（意見交換会等を行ったか。）

委員会評価

所管

総務経済委

R5 

A=7人（菊池、木村、橋本、渡辺、正村、常通、西尾）


F=1人（梶澤）

R4 

A=6人（中田、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町）

F=1人（早苗）

厚生文教委

R5 

A=8人（伊藤、小笠原、中田、堀切、立川、早苗、中村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 

A=7人（橋本、堀切、渡辺、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

議運委

R5 

A=7人（木村、中田、渡辺、立川、中村、正村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 

A=10人（中田、橋本、渡辺、立川、中村、鈴木、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

(3) 委員長は、副委員長と協議のうえ、委員会の秩序保持に努め、効率的な議事の整理を行い、委員会の事務をつかさどること。

・委員長は、副委員長と協議し、委員会の秩序保持に努め、効率的な議事整理を行い、委員会の事務をつかさどったか。

委員会評価

所管

総務経済委

R5 

A=7人（菊池、木村、橋本、渡辺、正村、常通、西尾）


F=1人（梶澤）

R4 

A=6人（中田、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町）


F=1人（早苗）

厚生文教委

R5 

A=8人（伊藤、小笠原、中田、堀切、立川、早苗、中村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 

A=7人（橋本、堀切、渡辺、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

議運委

R5 

A=7人（木村、中田、渡辺、立川、中村、正村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 

A=10人（中田、橋本、渡辺、立川、中村、鈴木、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

予決特委

R5 

A=14人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

C=1人（橋本）

・予決特において副委員長との協議は皆無であり、するべき。

F=1人（梶澤）

R4 

A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

(4) 委員長は、討議による合意形成に努め、委員長報告を作成し、報告に当たっては、論点、争点等を明確にすること

・委員長は、討議による合意形成に努め、委員長報告を作成し、報告に当たり、論点、争点等を明確にしたか。

委員会評価

所管

総務経済委

R5 ↑

A=7人（菊池、木村、橋本、渡辺、正村、常通、西尾）

F=1人（梶澤）

R4 ↓

A=5人（中田、梶澤、立川、中村、寺町）

B=1人（鈴木）

・討議による合意形成に努めたが、ミーティングの活用方法に改善の余地がある

F=1人（早苗）

厚生文教委

R5 ↑

A=7人（伊藤、小笠原、中田、堀切、立川、早苗、鈴木）

B=1人（中村）

・委員会としての課題抽出についての論点整理に時間を要した。

F=1人（梶澤）

R4 →

A=6人（橋本、堀切、正村、柴田、西尾、常通）

B=1人（渡辺）

・ミーティングなどを活用しながら討議による合意形成に努めたが、ミーティングの持ち方、開催の工夫など改善の余地はあると考える

F=1人（早苗）

議運委

R5 ↑

A=7人（木村、中田、渡辺、立川、中村、正村、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 →

A=9人（中田、橋本、渡辺、立川、鈴木、正村、柴田、西尾、常通）

B=1人（中村）

・論点、争点の明確化に努めたい

F=1人（早苗）

予決特委

R5 →

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

F=1人（梶澤）

R4 ↑

A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通）

F=1人（早苗）

（議長及び議員の活動原則）

第5条 議長及び議員は、次に掲げる原則に基づき、次の活動を行います。

（1）議長は、議会を代表し、公正で民主的かつ公平な立場において職務を行い、効率的な議会運営を行うこと。

・議長は、議会を代表し、公正で民主的かつ公平な立場において職務を行い、効率的な議会運営を行っていたと考えるか。

R5 ↓

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、西尾、鈴木、梶澤）

E=1人（常通）

・新嵐山の件については、議長に対し住民からの声が挙がったのが残念。

R4 →

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

（2）議員は、議員相互間の討議を重んじて活動すること。

・議員は、議員相互間の討議を重んじて活動したと考えるか。

R5 ↓

A=15人（菊池、伊藤、中田、小笠原、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）

B=1人（木村）

・前向きな議論が必要。

R4 ↑

<p>A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <p>・あなたは、議員相互間の討議を重んじて活動したと考えるか。</p> <p>R5 ↓</p> <p>A=14人（伊藤、木村、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <p>B=2人（菊池、小笠原）</p> <p>・自分の意見を述べることに終始した部分もあったため、各議員の討論と自分の考えを照らし合わせて冷静に判断する努力が必要。</p> <p>・各議員の基本的考えを理解できていなかった。</p>
<p>R4 ↑</p> <p>A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <p>(3) 議員は、町政の課題全般について、町民の意思を的確に把握するとともに、自らの能力を高める不断の研鑽により、町民の代表としてふさわしい活動を行うこと。</p> <p>・議員は、町政の課題全般について、町民の意思を的確に把握するとともに、自らの能力を高める不断の研鑽により、町民の代表としてふさわしい活動をしたと考えるか。</p> <p>R5 ↓</p> <p>A=13人（菊池、小笠原、中田、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <p>B=3人（伊藤、木村、橋本）</p> <p>・議員はどうしても関係する町民の方々の意思が強く反映されると思う。質疑、討議を通してバランスのとれた活動に注力する。</p> <p>・政策課題の学習を深め、町政の政策判断に繋げる努力が必要。</p> <p>・改善の余地あり。勉強会の開催。</p>
<p>R4 →</p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <p>B=1人（鈴木）</p> <p>・コロナ禍の影響により対面での調査活動など難しかった感じる</p> <p>・あなたは、町政の課題全般について、町民の意思を的確に把握するとともに、自らの能力を高める不断の研鑽により、町民の代表としてふさわしい活動をしたか。</p> <p>R5 ↑</p> <p>A=12人（木村、小笠原、中田、堀切、渡辺、立川、早苗、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <p>B=4人（菊池、伊藤、橋本、中村）</p> <p>・ある程度町民の声に基づいて判断・行動をしてきたが、より幅広く町民の声に耳を傾ける必要。</p> <p>・頑張っているが、まだ力不足。</p> <p>・先進的な事例の学習、研修会に参加すること。</p> <p>・改善の余地あり。自己研鑽有るのみ。</p> <p>・課題について、町民の意思把握という部分については活動不足。</p>
<p>R4 →</p>

A=10人(中田、堀切、梶澤、立川、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

B=4人(橋本、渡辺、鈴木、中村)

- ・コロナ禍のため活動自体が思うようにできなかった
- ・コロナ禍により対面での意思把握は困難な場面もあり、さまざまな工夫をこらしながら改善し自己研鑽に努めていく
- ・コロナ禍の影響により対面での調査活動など難しかった感じる
- ・町政の課題全般についての研鑽に努めたい

(4) 議員は、議会の構成員として公正かつ誠実に職務を遂行し、町民全体の福祉の向上及び豊かなまちづくりの推進を目指して活動すること。

- ・議員は、議会の構成員として公正かつ誠実に職務を遂行し、町民全体の福祉の向上及び豊かなまちづくりの推進を目指し活動したと考えるか。

R5 

A=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

R4 

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

- ・あなたは、議会の構成員として公正かつ誠実に職務を遂行し、町民全体の福祉の向上及び豊かなまちづくりの推進を目指し活動したか。

R5 

A=15人(伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(菊池)

- ・ある程度町民の声に基づいて判断・行動をしてきたが、今以上により多くの町民の声を広い活動に生かす必要がある。

R4 

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

(議員研修の充実強化)

第6条 議会は、議員の政策形成及び立案能力等の向上を図るため、別に定める芽室町議会議員研修要綱(平成24年3月30日制定)に基づき、議員研修を実施します。

- ・議会は、議員の政策形成及び立案能力等の向上を図るため、芽室町議会議員研修要綱に基づき、議員研修を実施したと考えるか。

R5 

A=15人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(木村)

- ・勉強不足感じ、より多くの学ぶ機会に参加する。

R4 

A=12人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、寺町、正村、西尾、常通、早苗)



B=1人(鈴木)

- ・コロナ禍の状況により、十分とは言えないが実施できた

E=1人(柴田)





- ・最善は尽くしたと考える

2 議会は、議員研修の充実、強化に当たり、広く各分野の専門家、町民各層等から情報を得て議員研修計画を策定し、研修会及び研究会などを積極的に開催します。

<p>・議会は、議員研修の充実、強化に当たり、広く各分野の専門家、町民各層等から情報を得て議員研修計画を策定し、研修会及び研究会などを積極的に開催したと考えるか。</p> <p>R5 </p> <p>A=16人 (菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=11人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、寺町、正村、西尾、常通、早苗) B=2人 (立川、鈴木)</p> <p>・議員定数・報酬に関する内容は住民と共に学べるフォーラム等を開催し、地方議会の課題等について住民と共通認識を持つべきだった。また、議長が芽室町議会の取り組み等について登壇する全国規模のフォーラムには全議員が参加してはいかがか(オンライン参加も可能である)。せつかくの議会改革の取り組みが議会内に共有されていないことが勿体無い</p> <p>・議員研修の充実とは、「量より質」の充実と考える</p> <p>E=1人 (柴田)</p> <p>・コロナ禍もあり試行錯誤の中進める努力はした</p>

(議員の政治倫理)

第7条 議会は、芽室町議会議員政治倫理条例(平成24年芽室町条例第33号)に基づき、議員は、二元代表制の一翼を担う町民全体の奉仕者及び特別公務員としての倫理性を常に自覚し、自己の地位に基づく影響力を不正に行使しません。

<p>・議員は、芽室町議会議員政治倫理条例に基づき、町民全体の奉仕者及び特別公務員としての倫理性を常に自覚し、自己の地位に基づく影響力を不正に行使することはなかったと考えるか。</p> <p>R5 </p> <p>A=16人 (菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=14人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)</p> <p>・あなたは、町民全体の奉仕者及び特別公務員としての倫理性を常に自覚し、自己の地位に基づく影響力を不正に行使することはなかったか。</p>
<p>R5 </p> <p>A=16人 (菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=14人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)</p>

第3章 町民と議会との関係
(町民参加及び町民との連携)

第8条 議会は、議会の活動に関する情報公開、共有を徹底し、説明責任を十分に果たし、町民が議会活動に参加する機会を確保します。

<p>・議会は、議会の活動に関する情報公開、共有を徹底し、説明責任を十分に果たし、町民が議会活動に参加する機会を確保したかと考えるか。</p> <p>R5 ↑</p> <p>A=15人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <p>B=1人（木村）</p> <p>・町政、議会活動に興味のない方への取組を検討すべき。</p>
<p>R4 →</p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <p>B=1人（立川）</p> <p>・議会モニター会議、PTAとの意見交換会などは理由はともあれ例年と比較し規模縮小となっている</p>
<p>2 議会は、本会議及び委員会並びに全員協議会（以下「議会の諸会議」といいます。）の日程及び内容は、事前に町民に周知するとともに、審議過程及び結果についても情報を公開し、共有します。</p>
<p>・議会は、本会議及び委員会並びに全員協議会の日程及び内容は、事前に町民に周知するとともに、審議過程及び結果についても情報を公開し、共有したと考えるか。</p> <p>R5 →</p> <p>A=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p>
<p>R4 →</p> <p>A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p>
<p>3 議会は、本会議及び委員会の運営に当たり、参考人制度や公聴会制度を十分に活用し、町民の意向及び学識経験者等の専門的かつ政策的識見等を議会の意思決定に反映します。</p>
<p>・議会は、本会議及び委員会の運営に当たり、参考人制度や公聴会制度を十分に活用し、町民の意向及び学識経験者等の専門的かつ政策的識見等を議会の意思決定に反映したと考えるか。</p> <p>R5 ↑</p> <p>A=14人（菊池、伊藤、木村、小笠原、橋本、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <p>B=1人（中田）</p> <p>・実績がないが常に行うものでもない。</p> <p>F=1人（堀切）</p>
<p>R4 →</p> <p>A=11人（中田、橋本、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <p>B=1人（渡辺）</p> <p>・公聴会の実績がない（常に行わなければならないことではない）</p> <p>C=1人（立川）</p> <p>・専門知見を活用したい案件があり委員長等に申し出を行ったが、叶わなかった。議員の知見だけでなく、もっと外部からの知見を活用すべきである</p> <p>F=1人（堀切）</p>

4 議会は、請願、陳情を町民による政策提案と位置付け、審査においては、提案者の意見を聴く機会を確保します。

・議会は、請願、陳情を町民による政策提案と位置付け、審査において、提案者の意見を聴く機会を確保したと考えるか。

R5 ↓

A=15人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(木村)

・町民の参考人招致の機会が必要。

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

5 議会は、議会報告と意見交換会を毎年開催するなど、広く町民の意見を聴取する機会を確保し、議会、議員による政策提案を行います。

・議会は、議会報告と意見交換会を毎年開催するなど、広く町民の意見を聴取する機会を確保し、議会、議員による政策提案を行ったと考えるか。

R5 ↑

A=14人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木)

B=2人(木村、梶澤)

・町内各種団体、生活者、成年、高齢者等の意見交換を恒常的にすべき。

・議会報告会は実施されたが、従来行われてきた意見交換会はできなかった。しかし、報告会やホットボイスでいただいた意見は真摯に受け止めたと考える。

R4 ↓

A=10人(橋本、堀切、渡辺、梶澤、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗)

B=3人(中田、中村、正村)

・意見交換会の回数、準備や振り返りを含めた時間より、その後の議論や調査・研究の場を多くする

・様々な手法を用い意見交換会を開催できたが、政策提案については、なかなか踏み込めない状況であり課題として残った

・令和4年度総括を踏まえ、令和5年度は事業の目的・目標の明確化、事業手法のあり方を検討し、より町民の声を政策に反映させる仕組みをあらたに構築する

C=1人(立川)

・地域への議会報告会に位置付けられているPTAとの意見交換会は書面でのアンケートのみとなり、議会報告や意見を交わすことができていない。対面以外でもコミュニケーションを図ることは可能だし、これまではそれが実施できていた

(議会広報の充実)

第9条 議会は、町政に係る論点、争点の情報を、議会独自の視点から町民に対して周知します。

・議会は、町政に係る論点、争点の情報を、議会独自の視点から町民に対して周知したと考えるか。

R5 ↑

A=15人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

C=1人(渡辺)

・ホームページ改修などで一定の成果はあるが、活性化策に掲げている「議員個人ページ」、「議会のトリセツ」など、工夫や改善は必要と考える。

R4 →

A=13人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

- ・ホームページ改修などで一定の成果はあるが、北大から提案のあった「議会のトリセツ」や「議員紹介ページ」など、工夫や改善は必要と考える

B=1人(立川)

- ・議会だよりのみではなく、SNSの即時性を活かした議会目線のわかりやすい発信が必要

2 議会は、情報通信技術(ICT)の発展を踏まえた多様な広報手段を活用し、多くの町民が行政に関心を持つように議会広報活動を行います。

- ・議会は、情報通信技術(ICT)の発展を踏まえた多様な広報手段を活用し、多くの町民が行政に関心を持つように議会広報活動を行ったと考えるか。

R5 ↓

A=11人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、中村、正村、西尾、鈴木、梶澤)

B=4人(木村、渡辺、早苗、常通)

- ・議運以外の町民意見の検証機関を設けるべき。
- ・議会SNSについては、活用方法、発信方法、ルール策定などあらためて検討が必要と考える。
- ・感心を持っていただくようなインパクトある内容にすべき。
- ・HPやFBだけでなく意見のあるYouTube等への情報発信ツール拡大の検討。

C=1人(立川)

- ・SNS活用法には強化策の必要がある(既存アカウントの中に更新できていないものがある)。

R4 ↓

A=12人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、早苗)

B=1人(常通)

- ・携帯端末で手軽に見られる「YouTube」アプリの活用

C=1人(立川)

- ・議会SNSは運用の強化が必要。検討事項だと考える。現在3つのアカウントの運用を行なっているがFacebook以外への発信できていないようだ

(議会白書、議会の自己評価)

第10条 議会は、町民に対し、議会及び議員の活動内容を公表し、情報を共有することにより、議会活動の活性化を図ります。

- ・議会は、町民に対し、議会及び議員の活動内容を公表し、情報を共有することにより、議会活動の活性化を図ったと考えるか。

R5 ↑

A=14人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=2人(木村、中村)

- ・活性化を図る具体的な仕組みが必要。
- ・議会の活性化を推進する意味で、評価は重要。評価についての議員の意識共有が必要。

R4 ↓

A=11人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗)

B=3人(立川、中村、正村)

- ・議会だよりは引き続き研究が必要
- ・評価の意義、活用についての議員相互の意識の共有が必要
- ・HOPSの提言をもとに自己評価、議会白書のあり方について検討をする

2 議会は、議会の基礎的な資料・情報、議会の評価等を1年ごとに調製し、議会白書として町民に公表します。

- ・議会は、議会の基礎的な資料・情報、議会の評価等を1年ごとに調製し、議会白書として町民に公表したと考えるか。

R5 ↓

A=15人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）
 C=1人（木村）

- ・わからない。

R4 →

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

3 議会は、議会の活性化に終えんがないことを常に認識し、議会としての評価を1年ごとに適正に行い、評価の結果を町民に公表します。

- ・議会は、議会の活性化に終えんがないことを常に認識し、議会としての評価を1年ごとに適正に行い、評価の結果を町民に公表したと考えるか。

R5 ↓

A=14人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）
 C=1人（木村）

- ・わからない

D=1人（立川）

- ・R4年度の議会活性化計画最終評価についてはHPで公開されていない。また、このことについて議会内からの指摘もない。

R4 →

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

4 議会白書及び議会としての評価に関して必要な事項は、議長が別に定めます。

R4 **R5** 客観的事実に基づくものであり評価項目としない

- ・議会白書及び議会としての評価に関して必要な事項は、議長が別に定めたか。

第4章 町長等と議会との関係

（町長等と議会、議員の関係）

第11条 町長等と議会は、それぞれの機関の特性を活かすとともに、政策をめぐる論点、争点を明確にし、緊張関係を維持しながら行政を運営します。

- ・町長等と議会は、それぞれの機関の特性を活かすとともに、政策をめぐる論点、争点を明確にし、緊張関係を維持しながら行政を運営したと考えるか。

R5 ↓

A=14人（菊池、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）
 B=2人（伊藤、木村）

・第3セクターの情報が余りにも出てこなかった。これでは町では第3セクター方式での施設の運営委託は難しいと思った。契約時に一段深い監査が出来る様にする必要がある。
・議会不在な事項、案件をなくす。

R4 ↓

A=13人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗)

B=1人(正村)

・町長の権限は拡大しており、議員個々の取り組みもさることながら、町民意見にもとづいた議会の意思をもっと明確にしてはどうか。町民意見を政策に反映するために議員間討議を習慣化させたい

2 議員と町長等との質疑応答は、広く町政上の論点、争点を明確にするため、一問一答方式で行います。

・議員と町長等との質疑応答は、一問一答方式により、広く町政上の論点、争点を明確にしたと考えるか。

R5 ↓

A=15人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(早苗)

・議長(委員長)は一問一答を徹底させる(質疑内容の精査を促す)。

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

・あなたと町長等との質疑応答は、一問一答方式により、広く町政上の論点、争点を明確にしたと考えるか。

R5 ↑

A=12人(伊藤、小笠原、中田、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木)

B=3人(菊池、木村、橋本)

・一定程度の成果は得られていると思うが、日々の町政についての研究がさらに必要。

・かみ合わないところがあり、論点を明確にする努力が必要。

・改善の余地あり。議会より当人の研鑽。

F=1人(梶澤)

R4 ↓

A=10人(中田、堀切、渡辺、梶澤、立川、鈴木、寺町、正村、西尾、常通)

B=2人(橋本、中村)

・不明確な部分が多少なりともあった感じている







・論点、争点の明確化に努めたい

F=2人(柴田、早苗)

3 議員は、一般質問等に当たっては、目的を十分認識し、単に町長等への質問に終始することなく、討議による政策論争を展開します。

・議員の一般質問等は、目的を十分認識し、単に町長等への質問に終始することなく、討議による政策論争を展開したと考えるか。

<p>R5 ↓</p> <p>A=12人（菊池、伊藤、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、中村、正村、常通、西尾、鈴木） B=3人（木村、早苗、梶澤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の整理、解決策の研鑽、学習が必要。 ・事前調査を徹底的に行う。 <p>E=1人（小笠原）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開していた部分もあるし、少々消化不良の部分もある。
<p>R4 ↑</p> <p>A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p>
<p>・あなたの一般質問等は、目的を十分認識し、単に町長等への質問に終始することなく、討議による政策論争を展開することができたか。</p> <p>R5 ↓</p> <p>A=7人（伊藤、堀切、立川、正村、常通、西尾、鈴木） B=6人（菊池、木村、中田、渡辺、早苗、中村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より深い討議をするために町政に対しての更なる 研究が必要。 ・質疑に終始し、自分の意見が述べられず、リベート能力の向上が必要。 ・経験を重ねることで、より良い政策論争を目指したい。 ・さらに自己研鑽に努め、討議による政策論争を展開できるようにする。 ・事前調査を徹底的に行う。 ・政策論争の展開には至っていない。提案型の討論展開に努めたい。 <p>E=1人（小笠原）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般質問の経験がない。 <p>F=2人（橋本、梶澤）</p>
<p>R4 →</p> <p>A=9人（中田、堀切、梶澤、立川、鈴木、寺町、正村、西尾、常通） B=3人（橋本、渡辺、中村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに自己研鑽に努め、討議による政策論争を展開できるようにする ・政策論争の展開の意識化に努めたい <p>F=2人（柴田、早苗）</p>
<p>4 議員は、一般質問の通告に基づき町長等から提出された答弁書をもとに、討議の充実を図ります。</p>
<p>・議員の一般質問は、通告に基づき町長等から提出された答弁書をもとに、討議の充実を図ることができたか考えるか。</p> <p>R5 ↓</p> <p>A=13人（菊池、伊藤、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木） B=2人（木村、梶澤）</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも前日までに答弁をいただきたい。 ・論点化整理を含めた事前整理を強化することにより充実が図られる。 <p>E=1人(小笠原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの課題。
<p>R4 </p> <p>A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・あなたの一般質問は、通告に基づき町長等から提出された答弁書をもとに、討議の充実を図ることができたと考えるか。 <p>R5 </p> <p>A=12人(伊藤、木村、中田、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木)</p> <p>B=1人(菊池)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる研鑽が必要。 <p>E=1人(小笠原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの課題。 <p>F=2人(橋本、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=10人(中田、堀切、渡辺、梶澤、立川、鈴木、寺町、正村、西尾、常通)</p> <p>B=2人(橋本、中村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる研鑽が必要 ・討議の充実のため、取り巻く課題について更に研究する必要性を感じている <p>F=2人(柴田、早苗)</p>
<p>5 議員は、二元代表民主制の充実と町民自治の観点から、法定以外の執行機関の諮問機関、審議会等の委員に就任しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員は、法定以外の執行機関の諮問機関、審議会等の委員に就任しなかったか。 <p>R5 </p> <p>A=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、法定以外の執行機関の諮問機関、審議会等の委員に就任しなかったか。 <p>R5 </p> <p>A=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)</p>
<p>R4 </p> <p>A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)</p>

6 議長から議会の諸会議への出席を要請された町長及び執行機関の長並びに職員(以下「町長等執行機関の長等」といいます。)は、議員の質疑及び質問に対して、議長及び委員長長の許可を得て、論点、争点を明確にするため反問することができます。


R4-R5	町長等執行機関の長等の権利規定であり、評価項目としない
	・議員の質疑及び質問に対し、町長及び職員は、論点、争点を明確にするための反問をしたと考えるか。
R4-R5	町長等執行機関の長等の権利規定であり、評価項目としない
	・あなたの質疑及び質問に対し、町長及び職員は、論点、争点を明確にするための反問をしたと考えるか。
7 議長から議会の諸会議への出席を要請された町長等執行機関の長等は、議員又は委員会による条例の提案、議案の修正、決議等に対して、議長又は委員長の許可を得て、反論することができます。	
R4-R5	町長等執行機関の長等の権利規定であり、評価項目としない
	・議員の質疑及び質問に対し、議員又は委員会による条例の提案、議案の修正、決議等に対して、町長等執行機関の長等は、議長又は委員長の許可を得て、反論したと考えるか。
R4-R5	町長等執行機関の長等の権利規定であり、評価項目としない
	・あなたの質疑及び質問に対し、議員又は委員会による条例の提案、議案の修正、決議等に対して、議長又は委員長の許可を得て、反論したか。

(政策形成過程等)


第12条 議会は、町長等が提案する重要な政策等の意思決定においては、その水準を高めるため、次に掲げる政策形成過程を論点として審議します。

- (1) 政策等の発生源
- (2) 検討した他の政策等の内容
- (3) 他の自治体の類似する政策等との比較検討
- (4) 総合計画の実行計画及び個別計画における根拠又は位置付け
- (5) 関係ある法令及び条例等
- (6) 政策等の実施に関わる財源措置
- (7) 総合計画上の実行計画及び将来にわたる政策等のコスト計算

	・議会は、町長等が提案する重要な政策等の意思決定において、その水準を高めるため、7項目をもとに政策形成過程を論点として審議したと考えるか。
R5	↓
	A=10人 (菊池、木村、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、正村、西尾、鈴木)
	・常に7項目を意識して審議に臨むことが必要。
	B=6人 (伊藤、小笠原、立川、中村、常通、梶澤)
	・論点として審議はしたが時間的に難しかった。
	・以前の資料を観ていなかったので個人的に勉強の必要がある。
	・引き続き研鑽と実践の機会創出が必要。
	・7項目の意識化を念頭に、審議に努めたい。
	・7項目の意識が十分とはいえない場面もあった。

<p>・自由討議やミーティングを利用した委員会内部の論点、争点の定着が必要。</p>
<p>R4 </p> <p>A=9人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、寺町、柴田、西尾、早苗）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に7項目を意識して審議に臨むことが必要 <p>B=5人（立川、中村、鈴木、正村、常通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会単位での事前MTG等による論点整理の実施が定着すると、より深く充実した審議が行えると考え ・7項目の意識化に努めたい ・7項目を確認・共有してから審議する方法が良い ・だんだんと意識が薄れているように感じる。再度全員で意識づけの共通認識を図る


2 議会は、前項の政策等の提案を審議するに当たっては、政策等の適否を判断する観点から、立案、決定、執行における論点、争点を明確にし、執行後を想定した審議を行います。




<p>・議会は、政策等の提案を審議するに当たり、政策等の適否を判断する観点から、立案、決定、執行における論点、争点を明確にし、執行後を想定した審議を行ったと考えるか。</p>
<p>R5 </p> <p>A=10人（菊池、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、正村、常通、西尾、鈴木）</p> <p>B=6人（伊藤、木村、小笠原、早苗、中村、梶澤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議時間に限りがあったがその中では頑張れたと思う。執行後の想定の方は間違っていないと思う。 ・議員間で町の提案等の課題等の整理が必要。 ・以前の資料を観ていなかったのが個人的に勉強の必要がある。 ・審査中での参考人招致をすべきであった。 ・政策判断の重要性をしっかりと認識するためにも、更なる議論、共有は必要。 ・執行後を想定した審議が重要であり、常に予算、決算審査のサイクルを回すことを意識しなければならない。

<p>R4 </p> <p>A=10人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、寺町、柴田、西尾、早苗）</p> <p>B=4人（中村、鈴木、正村、常通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員間討議の継続、充実努めたい ・執行後を想定した審議が不十分である ・まだ、十分とは言えないと感じる。議員間討議の更なる充実を図る

(評価の実施)

第13条 議会は、決算審査において、町長等が執行した政策等（計画、政策、施策、事務事業等）の評価（以下「議会の評価」といいます。）を行います。

<p>・議会は、決算審査において、町長等が執行した政策等（計画、政策、施策、事務事業等）の評価を行ったと考えるか。</p>
<p>R5 </p>

<p>A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤） B=1人（立川）</p> <p>・議員個々の取り組みで済んでしまっている。審査後の委員会等での議員間討議、並びに提政策言等につなげるスキームが議会内にはない。</p>
<p>R4 </p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗） B=1人（立川）</p> <p>・議員個々の質疑で終わっている。審査前や審査後のアクションが必要。次年度予算に向けた議員間討議、政策提言などが実施できると良い</p>
<p>2 議会は、予算に十分反映させるため、議会の評価結果を町長等に明確に示します。</p> <p>・議会は、予算に十分反映させるため、議会の評価結果を町長等に明確に示したと考えるか。</p>
<p>R5 </p> <p>A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤） B=1人（立川）</p> <p>・一般質問や委員会での委員質疑から予算計上として反映された事業もあるが、議会の意思として政策提言等につなげる議員間討議の場を創出する必要がある。</p>
<p>R4 </p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗） C=1人（立川）</p> <p>・課題のある事業についての委員会提言等は反映されることがあるが、決算審査後の議員間討議、政策提言が定例化されていない。議会のルーティン作りが必要ではないか</p>

（議決事項の拡大）

第14条 議会は、議決責任という役割を果たす観点に立ち、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」といいます。）第96条第2項の議決事件について、次のとおり定めます。

- (1) 芽室町総合計画に係る基本構想及び実施計画
 - (2) 定住自立圏形成協定の締結、変更及び同協定の廃止を求める旨の通告
 - (3) 芽室町庁舎建設基本計画
 - (4) 芽室町都市計画マスタープラン
- （文書質問）

第15条 議員は、通年議会制度を活用し、休会中においても主体的・機動的な議員活動に資するため、議長を経由して町長等に対し文書質問を行うことができます

R4 R5	議員の権利規定であり、評価項目としない
	・議員は、通年議会制度を活用し、休会中においても主体的・機動的な議員活動に資するため、議長を経由して町長等に対し文書質問を行ったか。
R4 R5	議員の権利規定であり、評価項目としない
	・あなたは、通年議会制度を活用し、休会中においても主体的・機動的な議員活動に資するため、議長を経由して町長等に対し文書質問を行ったか。

2 議会は、文書質問の通告文及び町長等の回答文を、議会だより、議会ホームページ等により町民に公表します。

・議会は、文書質問の通告文及び町長等の回答文を、議会だより、議会ホームページ等により町民に公表したか。

R5 ↓

A=11人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、中村、正村、西尾、梶澤)

C=1人(木村)

・わからない。

F=4人(立川、早苗、常通、鈴木)

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

3 文書質問について必要な事項は、芽室町議会会議条例(平成24年芽室町条例第32号。以下「会議条例」といいます。)で定めます。

・文書質問について必要な事項は、芽室町議会会議条例で定めたか。

H27- 評価項目としない

第5章 議員相互の討議

(自由討議による合意形成)

第16条 議会は、議員による討議の場であり、議員相互の討議を中心に運営します。

・議会は、議員による討議の場をもとに、議員相互の討議を中心に運営したと考えるか。

R5 ↓

A=13人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=2人(立川、早苗)

・委員会調査後の「自由討議」では議員個々の意見表明で止まっているが、論点争点を磨くには議員間討議の手法の工夫が必要である。

・論点を明確にした上で会議参加者全員で討議する。

C=1人(木村)

・事前に論点を整理し、けんけんがくがくの討議が必要。

R4 ↑

A=13人(中田、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

B=1人(橋本)

・進化はしているがまだまだ必要と考える

2 前項の規定に基づき、本会議及び議会の諸会議への町長等に対する出席要請は、必要最小限に留めるものとし、議員間で活発な討議を行います。

・本会議及び議会の諸会議への町長等に対する出席要請は、必要最小限に留めるものとし、議員間で活発な討議を行ったと考えるか。

R5 ↓

A=15人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(早苗)

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

3 議会は、委員会における委員外議員が発言できる機会を保障します。

・議会は、委員会における委員外議員が発言できる機会を保障したと考えるか。

R5 ↓

A=12人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、西尾、梶澤)

F=4人(橋本、立川、常通、鈴木)

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

4 議会は、本会議及び委員会において、議員提出議案、町長提出議案及び請願並びに陳情等を審議し結論を出す場合には、議員相互の自由討議により議論を尽くして合意形成に努めるとともに、町民に対する説明責任を十分に果たします。

・議会は、本会議及び委員会において、議員提出議案、町長提出議案及び請願並びに陳情等を審議し結論を出す場合、議員相互の自由討議により議論を尽くして合意形成に努めるとともに、町民に対する説明責任を十分に果たしたと考えるか。

R5 ↓

A=14人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=2人(木村、早苗)

- ・論点を整理した中、全議員が述べる機会を設けるべき。
- ・不完全な案件があった。会議日程は余裕あるものとすべき。

R4 →

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

5 議員は、条例、意見書等の議案の提出を積極的に行うように努め、議員相互の討議により議論を尽くして合意形成を行います。

・議員は、条例、意見書等の議案の提出を積極的に行うように努め、議員相互の討議により議論を尽くして合意形成を行ったと考えるか。

R5 ↓

A=14人(菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1人(堀切)

C=1人(木村)

- ・国、道、市などと違い、職業議員でないので無理がある。

R4 →

A=13人(中田、橋本、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

D=1人(堀切)

- ・議員個々の力量アップとともに議会として積極的に議案提案できる力量アップが求められる

・あなたは、条例、意見書等の議案の提出を積極的に行うように努め、議員相互の討議により議論を尽くして合意形成に関わったか。

R5 ↓

A=10人（伊藤、中田、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

B=2人（小笠原、堀切）

・個人的に全体的な流れが不明な点があり、十分な議論を尽くしたかと問われたら疑問符の部分がある。

C=2人（菊池、木村）

・提出に関して、積極的に行えなかったため改善が必要である。

・その仕組み確立が必要。

F=2人（橋本、梶澤）

R4 →

A=10人（中田、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、西尾、常通）

B=1人（柴田）

・個としては行っていないが委員会として取り組んできた。個としては難しい。会派やグループ的なこともコロナ禍で会食・会合ができずにいた

C=1人（橋本）

・努めてはいるが積極的とまでは言えない

D=1人（堀切）

・議員としての調査、研究、提案能力の力量アップが必要と考える

F=1人（早苗）

（議員政策討論会の開催）

第17条 議会は、町政に関する重要な政策及び課題等について、議会としての共通認識を深めるとともに、政策形成能力の向上を図るため、議員政策討論会を開催します。

・議会は、町政に関する重要な政策及び課題等について、議会としての共通認識を深めるとともに、政策形成能力の向上を図るため、議員政策討論会を開催したか。

R5 ↑

A=7人（菊池、伊藤、小笠原、早苗、正村、西尾、鈴木）

B=3人（木村、中田、渡辺）

・共通認識をはかるには時間が足りないし、個々の政策形成能力の向上が全てで、もう少し勉強しようと思う。

・政策討論会にこだわらず共通認識を持つ場はあったと考える。

・それぞれの常任委員会の抽出事業については、年度途中、年度最後に政策討論会を開催し、課題の共通認識、あらたな視点の確認などを行うことが必要と考える。

E=1人（中村）

・政策、課題について、様々な形での議員共有、討論は進んでいるが、政策討論会という形での討論形成なのか。

F=5人(橋本、堀切、立川、常通、梶澤)

・政策討論会の開催事例はないが、必要性を認識している。特別委員会でのM T Gがそれに該当するのかもしれないが非公開である。
議活性化計画評価では議員間討議の場を持たた。

R4 ↓

A=2人(西尾、早苗)

B=3人(中田、渡辺、柴田)

・それぞれの常任委員会の抽出事業については、年度途中、年度最後に政策討論会を開催し、課題の共通認識、あらたな視点の確認など行うことが必要と考える
・政策討論会ではないが、議員間討議は行った。政策形成能力の向上を図る手段は討論会だけではないと思う
・共通認識を深めた後のまとめ方の方向や手法の工夫が必要と考える

C=3人(梶澤、立川、鈴木)

・所管常任委員会内は進展しつつも、議会全体による政策討論会には至っていない
・政策形成サイクルを意識した委員会運営が必要。抽出事項については、中間報告のように年度途中での開催を設けても良いのではないかと。スケジュール管理は必須である
・自由討議から政策討論会までは至っていない

D=2人(橋本、寺町)

・政策討論会まで至っていない
・取り組む努力が必要

F=4人(堀切、中村、正村、常通)

2 議員政策討論会について必要な事項は、議長が別に定めます。

第6章 適正な議会機能

(適正な議会費の確立)

第18条 議会は、議会費について、一定の標準率などを用いて適正な議会活動費の確立を目指します。

・議会は、議会費について、一定の標準率などを用いて適正な議会活動費の確立を目指したか。

R5 ↑

A=15人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、梶澤)

B=1人(鈴木)

・検討中

R4 ↓





A=13人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、西尾、常通、早苗)

B=1人(柴田)

・取り組んでいるが、予算の限界を感じる出来事が今後も増してくると考える

2 議会は、議事機関としての機能を確保するとともに、より円滑な議会運営を実現するため、必要な予算を確保します。

・議会は、議事機関としての機能を確保するとともに、より円滑な議会運営を実現するため、必要な予算を確保したか。

<p>R5 </p> <p>A=15人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も最大限の予算確保を願う。 <p>C=1人（木村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二元代表制のもとであれば、政策経費の増額が必要。
<p>R4 </p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も最大限の予算確保を願う <p>B=1人（立川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局機能強化が必要と考える（マンパワー不足で出来ない、ということがないようにしたい）
<p>3 議会は、議長交際費を含めて、議会費の使途等を議会だより及び議会ホームページ等により町民に公表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会は、議長交際費を含めて、議会費の使途等を議会だより及び議会ホームページ等により町民に公表したか。
<p>R5 </p> <p>A=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p>
<p>R4 </p> <p>A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）</p>


（議長、副議長志願者の所信表明）

第19条 議会は、議長、副議長の選出に当たり、議会活動の方向性を明確にし、議会の透明性をより一層高め、議会の責務を強く認識するため、それぞれの職を志願する者に所信を表明する機会を設けます。

<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、議長、副議長の選出に当たり、議会活動の方向性を明確にし、議会の透明性をより一層高め、議会の責務を強く認識するため、それぞれの職を志願する者に所信を表明する機会を設けたか。（参考）令和4年度は改選等による正副議長選挙が無かったため所信表明は無い。
<p>R5 —</p> <p>A=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p>
<p>R1-R4 評価項目としない</p>

（附属機関の設置）

第20条 議会は、議会活動に関し、審査、諮問又は調査のため必要があると認めるときは、別に条例で定めるところにより、学識経験を有する者等で構成する附属機関を設置します。

<ul style="list-style-type: none"> ・議会は、議会活動に関し、審査、諮問又は調査のため必要があると認めるときは、別に条例で定めるところにより、学識経験を有する者等で構成する附属機関を設置したか。
<p>R5 </p> <p>F=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）</p>

R4	↑
A=13人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、西尾、常通、早苗) F=1人(柴田)	
2 附属機関に関して必要な事項は、別に条例で定めます。	
H30-	すでに条例規定しているため、評価項目としない
・附属機関に関して必要な事項は、別に条例で定めたか。	

(調査機関の設置)

第21条 議会は、町政の課題に関する調査のために必要があると認めるときは、法第100条の規定により、学識経験を有する者等で構成する調査機関を設置します。

・議会は、町政の課題に関する調査のために必要があると認めるときは、法第100条の規定により、学識経験を有する者等で構成する調査機関を設置したか。(参考)令和4年度は設置していない。	
R5	→
F=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)	
R4	→
F=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)	

2 議会は、必要があると認めるときは、前項の調査機関に議員を構成員として加えます。

・議会は、必要があると認めるときは、前項の調査機関に議員を構成員として加えたか。(参考)令和4年度は設置していないため議員を構成員として加える必要はなかった。	
R5	→
F=16人(菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)	
R4	→
F=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)	

3 調査機関に関し必要な事項は、会議条例で定めます。

(議会事務局の体制整備)

第22条 議会は、法第138条第2項の規定に基づき、芽室町議会事務局を置きます。

2 議会は、議会及び議員の政策立案能力を向上させ、議会活動を円滑かつ効率的に行うため、議会事務局の機能の強化及び組織体制の整備を図ります。なお、当分の間は、執行機関の法務及び財務機能の活用、職員の併任等を考慮します。

・議会は、議会及び議員の政策立案能力を向上させ、議会活動を円滑かつ効率的に行うため、議会事務局の機能の強化及び組織体制の整備を図ったと考えるか。	
R5	↑
A=13人(菊池、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤) B=3人(伊藤、木村、立川)	
・現状は良いが、事務局はもう少し強化した方が議員の負担を低減出来ると思う。	

- ・条例制定、予算修正など、議会事務局機能充実が必要で、職員増を図るべき。
- ・マンパワー不足の解消策が必要。議長には議会機能強化の観点から事務局機能強化策についてご検討いただきたい。「負担軽減」を理由に議会活動が縮減の方向に向かうことは望ましくない。

R4 ↓

A=10人（堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、西尾、常通、早苗）

B=2人（立川、柴田）

- ・図ったかと言われると現状維持は最低限必要
- ・人員不足により事務局業務に負担が生じているようであれば、検討すべきである。研修機会の確保や先進事例を行っている議会事務局との交流機会も必要ではないか

D=1人（橋本）

- ・委員会のオンライン開催もあり事務局の仕事量は増えていると考えるが、増員、体制が整備されたとは言えない

F=1人（中田）

3 議長は、議会事務局の職員人事に関し、その任免権を行使するものとし、あらかじめ町長と協議します。

H30-R5 議長が事務局の職員人事に関し、任免権を行使し、町長と協議したかどうかは他議員からは評価しづらいため評価項目としない

- ・議長は、議会事務局の職員人事に関し、その任免権を行使するものとし、あらかじめ町長と協議したと考えるか。

（議会図書室の充実）

第23条 議会は、法第100条第18項の規定により、議会図書室を適正に管理し運営するとともに、その機能を強化します。

- ・議会は、議会図書室を適正に管理し運営するとともに、その機能を強化したと考えるか。

R5 ↑

A=13人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

B=3人（木村、立川、梶澤）

- ・個々の議員に必要な図書の要望を聞く仕組みが必要。
- ・新庁舎移転後、議会図書室機能強化についての議論が進んでいない。
- ・適正に管理、運営はされているが、機能強化までは不透明。

R4 ↓

A=11人（中田、橋本、堀切、渡辺、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通）

B=1人（早苗）

- ・機能強化策は行っていない

C=2人（梶澤、立川）

- ・強化までは至っていない
- ・新庁舎移転後の議会図書室機能強化について議論を行うべきである

2 議会図書室は、議員のみならず、町民、町長等においても利用することができます。

・議会図書室は、町民、町長等においても利用することができたか。

R5 ↓

A=12人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

B=3人（木村、渡辺、立川）

・環境的整備されているので、町民周知が必要。

・新庁舎共用とともに一定整理されたが、町民の方が見やすい並べ方など、利用しやすさにおいては改善すべき点はあると考える。

・少数ながら議会図書室を利用する町民もいるが、議会図書室機能強化について議論が止まっている。存在の周知も十分ではない。

E=1人（梶澤）

・町民、議員の利用も含めた議会図書室の在り方について、議会内部における整理が必要。

R4 ↓

A=11人（中田、橋本、堀切、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

B=1人（渡辺）

・新庁舎共用とともに一定整理されたが、町民の方が見やすい並べ方など、利用しやすさにおいては改善すべき点はあると考える

C=1人（立川）

・存在が認知されていないように感じる。広報、周知が必要。また、議員以外の利用を踏まえた整備も必要

F=1人（梶澤）

（議会改革及び活性化の推進）

第24条 議会は、町民の信頼を高めるため、不断の改革及び活性化に努めます。

・議会は、町民の信頼を高めるため、不断の改革及び活性化に努めたか。

R5 ↓

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）

B=1人（中田）

・無投票であったが、これまでの改革の評価点検をすべき時にきているのではと考える。

R4 ↑

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

2 議会は、前項の改革に取り組むため、議会活性化計画を策定し、実行と評価について全議員で協議します。

・議会は、前項の改革に取り組むため、議会活性化計画を策定し、実行と評価について全議員で協議したか。

R5 ↓

A=14人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）

B=2人（木村、立川）

・協議の恒常化仕組みが必要。

・議運委員とそれ議員との意識格差解消策が必要（全員理解のもと進めていくのが理想）。議運での議論過程共有策の工夫も必要であるが、史上初の無投票選挙を踏まえると、すべての議員が自分ごととして議会活性化に取り組む機運の醸成が求められる。

R4 →

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

3 議会は、他の自治体議会との交流及び連携を推進し、分権時代にふさわしい議会のあり方についての調査、研究等を行います。

・議会は、他の自治体議会との交流及び連携を推進し、分権時代にふさわしい議会のあり方についての調査、研究等を行ったか考えるか。

R5 ↑

A=16人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）

R4 →

B=2人（橋本、立川）

・コロナ禍の中思うような結果に結びついていない

・少しずつ視察受け入れが再開しているが、視察対応に限られた議員のみで行われている（全議員で対応すると決められていたように記憶する）。また、長らく議運での先進事務調査が行われていないが、こちらから出向く機会を設けても良いと考える

C=1人（渡辺）

・コロナの影響の中で調査・研究は取り組んでいないと考える

D=1人（寺町）

・コロナの関係でできなかった

F=1人（正村）

・必要に応じて実施すればよいことである。「やらなければならない」とすることで、手段が目的化してしまう

4 議会は、議会制度に係る法改正等があったとき、又は議会改革の推進の観点から必要があると認めるときは、速やかに調査、研究等を行います。

・議会は、議会制度に係る法改正等があったとき、又は議会改革の推進の観点から必要があると認めるときは、速やかに調査、研究等を行ったか考えるか。

R5 ↓

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木）

F=1人（梶澤）

・法改正等があったときの議会内の共有作業も必要。

R4 ↑

A=14人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）

5 議会は、議会モニター及び議会サポーターを設置し、提言その他の意見を聴取するとともに、議会運営に反映します。

・議会は、議会モニター及び議会サポーターを設置し、提言その他の意見を聴取するとともに、議会運営に反映したか考えるか。

R5 ↑

A=15人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）

B=1人（立川）

<p>・今年度は2回の開催で終了したが、十分な会議回数であったか否か、モニターアンケートの結果によっては次年度に反映すべきと考える。</p>	
R4	<p>→</p> <p>A=13人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗） B=1人（立川） ・2022年度はモニターからの意見聴取の機会が少なく、取り組みが不十分であった</p>

(災害対応)

第25条 議会は、町民の生命又は生活に直接影響を及ぼす災害等が発生した場合は、町民及び地域の状況を的確に把握すると共に、議会としての業務を継続し、町長等に速やかに必要な要請を行います。

<p>・議会は、災害時に町民及び地域の状況を的確に把握すると共に、議会としての業務を継続し、町長等に速やかに必要な要請を行ったと考えるか。</p>	
R5	<p>↓</p> <p>A=9人（伊藤、中田、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾） B=1人（木村） ・大きな災害がなかった。 E=1人（小笠原） ・事例がないので判断できない。 F=5人（菊池、橋本、堀切、鈴木、梶澤）</p>

R4	<p>→</p> <p>A=11人（中田、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、正村、柴田、西尾、常通、早苗） F=3人（橋本、堀切、寺町） ・災害なし ・幸いに大災害がなかった</p>
----	---

2 前項に規定する災害等が発生した場合における議会の対応について必要な事項は、議長が別に定めます。

H30-	「議会災害時対応基本計画」を策定済みのため評価項目としない
<p>・必要な事項は、議長が別に定めたと考えるか。</p>	

第7章 会議の運営

(通年議会)

第26条 議会は、前条の目的を達成し使命を果たすため、会期を通年とします。

H30-	既に通年議会を運用しているため評価項目としない
<p>・議会は、前条の目的を達成し使命を果たすため、会期の通年化を運営できたと考えるか。</p>	

2 会期を通年とするために必要な事項は、会議条例で定めます。

H30-	既に「議会会議条例」を規定・運用しているため評価項目としない
・会期を通年とするために必要な事項は、会議条例で定めたと考えるか。	

(議会運営の原則)

第 27 条 議会は、民主的かつ効率的な議会運営を行います。

・議会は、民主的かつ効率的な議会運営を行ったと考えるか。

R5 ↑

A=16 人 (菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

R4 ↓

A=13 人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、柴田、西尾、常通、早苗)

B=1 人 (正村)

・議会諮問会議答申にあるように、活動内容の検証や活動量の精査については今後取り組んでいかななくてはならない

2 議会は、芽室町議会傍聴条例 (平成 24 年芽室町条例第 34 号) に定める町民等の傍聴に関して、議案の審議に用いる資料等を提供するなど、町民の傍聴の意欲を高める議会運営を行います。

・議会は、芽室町議会傍聴条例に定める町民等の傍聴に関して、議案の審議に用いる資料等を提供するなど、町民の傍聴の意欲を高める議会運営を行ったかと考えるか。

R5 ↓

A=15 人 (菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

B=1 人 (木村)

・PR、周知の拡大が必要

R4 →

A=14 人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

3 議会は、会議を定刻に開催し、会議を休憩する場合には、その理由、再開の時刻を傍聴者に説明します。

・議会は、会議を定刻に開催し、会議を休憩する場合には、その理由、再開の時刻を傍聴者に説明したと考えるか。

R5 →

A=16 人 (菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

R4 ↑

A=14 人 (中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

第 8 章 議員定数・報酬等

(議員定数)

第 28 条 法第 91 条第 1 項の規定に基づき、芽室町議会の議員の定数は、16 人とします。

2 議員定数の改正に当たっては、民主主義の原理を踏まえ、附属機関、参考人制度及び公聴会制度を十分活用します。

H27-R5	定数・報酬改正に関する協議等は行われたが、改正に至っていないため評価項目としない
--------	--

3 議員定数の改正については、法第 74 条第 1 項の規定による町民の直接請求があった場合を除き、改正理由の説明を付して、必ず議員が提案するものとします。

(報酬等)

第 29 条 議員の報酬及び費用弁償並びに期末手当（以下「報酬等」といいます。）は、別に条例で定めます。

- 2 前項に規定する条例においては、適正な報酬等の確立を期すため、報酬の標準率又は報酬額を示します。
- 3 報酬等の改正に当たっては、民主主義の原理を踏まえ、附属機関、参考人制度及び公聴会制度を十分に活用します。

H27-R5	定数・報酬改正に関する協議等は行われたが、改正に至っていないため評価項目としない
・報酬等の改正に当たり、民主主義の原理を踏まえ、附属機関、参考人制度及び公聴会制度を十分に活用したと考えるか。	

4 報酬等の改正については、法第 74 条第 1 項の規定による町民の直接請求があった場合を除き、改正理由の説明を付して、必ず議員が提案するものとします。

第 9 章 最高規範性及び見直し手続き

(最高規範性)

第 30 条 この条例は、議会の最高規範であり、この条例に違反する条例、規則、規程等を制定しません。

2 議会及び議員は、この条例を順守します。

・議会及び議員は、議会基本条例を順守したと考えるか。	
R5	↑
A=15 人（菊池、伊藤、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤） B=1 人（木村） ・常時意識する必要がある	
R4	↓
A=13 人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗） B=1 人（立川） ・今後は、基本条例を具現化するための取り組み強化が必要（議員間討議、政策形成等）	
3 議会は、議会に関する憲法、法律、その他法令等の条項を解釈し、運用する場合においても、この条例に定める理念、原則に照らして判断します。	
・議会は、議会に関する憲法、法律、その他法令等の条項を解釈し、運用する場合においても、この条例に定める理念、原則に照らして判断したと考えるか。	
R5	→
A=16 人（菊池、伊藤、木村、小笠原、中田、橋本、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤）	
R4	→
A=14 人（中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗）	

(検証及び見直し手続)

第31条 議会は、1年ごとに、この条例の目的が達成されているかどうかを検証し、公表します。

・議会は、1年ごとに、この条例の目的が達成されているかどうかを検証し、公表したと考えるか。

R5 ↓

A=13人(菊池、伊藤、小笠原、中田、堀切、渡辺、早苗、中村、正村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

C=1人(木村)

・わからない。

D=1人(立川)

・自己評価は行なっているがR4年度の結果はHPで公開されていない。

F=1人(橋本)

R4 →

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

2 議会は、前項による検証の結果、制度の改善が必要な場合は、全ての議員の合意形成に努めたいと、この条例の改正を含めて適切な措置を講じます。

・議会は、前項による検証の結果、制度の改善が必要な場合は、全ての議員の合意形成に努めたいと、この条例の改正を含めて適切な措置を講じたと考えるか。

R5 ↓

A=13人(菊池、伊藤、木村、小笠原、堀切、渡辺、立川、早苗、中村、常通、西尾、鈴木、梶澤)

E=1人(正村)

・制度の改善が必要であるという議論まで至っていないが、評価のあり方を再度検討し、条例改正も行うべきだと考える。

F=2人(中田、橋本)

・制度の改善が必要である、という議論はなかった。

R4 ↑

A=14人(中田、橋本、堀切、渡辺、梶澤、立川、中村、鈴木、寺町、正村、柴田、西尾、常通、早苗)

3 議会は、この条例を改正する際には、いかなる場合でも改正の理由、背景を町民に説明します。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行します。

(芽室町議会の議員の定数を定める条例の廃止)

2 芽室町議会の議員の定数を定める条例(平成14年芽室町条例第48号)は廃止します。

(議会事務局設置条例の廃止)

3 議会事務局設置条例(昭和33年芽室町条例第8号)は廃止します。

(芽室町議会の議決すべき事件を定める条例の廃止)

4 芽室町議会の議決すべき事件を定める条例（平成 23 年芽室町条例第 3 号）は廃止します。

（芽室町定住自立圏形成協定の議決に関する条例の廃止）

5 芽室町定住自立圏形成協定の議決に関する条例（平成 23 年芽室町条例第 14 号）は廃止します。

附 則（平成 26 年 12 月 25 日条例第 44 号）

この条例は、平成 27 年 5 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 27 日条例第 32 号）

この条例は、平成 27 年 5 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 28 日条例第 22 号）

この条例は、平成 28 年 5 月 1 日から施行する



2014 マニフェスト大賞最優秀成果賞



北海道芽室町議会

082-8651

北海道河西郡芽室町東2条2丁目14番地

<http://www.memuro.net/gikai/gikai.htm>

e-mail g-shomu@memuro.net

tel0155-62-9731 fax0155-62-9813